

UNIVERSITY ENTRANCE EXAM SPECIAL

海外大学進学のための予備校紹介

留学の成否は準備次第！アゴス・ジャパンが万全の対策を指導

海外の大学に入るには、TOEFL、IELTSなど英語力を証明する試験のスコアが必須となってくる。学部や大学院に正規留学する場合だけでなく、日本の大学在学中に交換留学する際にも役立つ試験だ。高スコアを取るための学習法と留学のための心構えを、留学準備をトータルにサポートするアゴス・ジャパンに伺った。

「卒業後に欧米の大学への進学を目指す高校生、在学中の交換留学や海外大学院への進学を志す大学生、そしてキャリアアップのための留学を予定している社会人と、アゴス・ジャパンでは、さまざまな受講生がそれぞれの目的を持って学んでいます」と、土橋健一郎先生。土橋先生は主に、出願の際に英語力を証明するために使われるTOEFL、IELTSといった試験対策の指導を行なっている。

■自分に合った試験を選ぶ

「TOEFLはアメリカの、IELTSはイギリスの試験というイメージが強いのですが、最近ではIELTSを英語力認定の試験として受け入れているアメリカの大学も多く、受験生は、自分に合った試験を選ぶ傾向にあります」。いずれもリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を測る試験だが、例えばTOEFLのスピーキングは、録音により解答を行なうもので、冒頭と締めくくりにインパクトを持たせ、全体的に採点官に好印象を与えるとよいとされる。面接官との応答形式であるIELTSでは、使用する語彙や文法について細かい採点項目があり、それらをクリアしないと高得点を望むことができない。日本人の場合特に発音を苦手とする人が多く、いずれの試験

も独学での高スコア取得は困難だ。大学在学中に交換留学に応募する場合は、日本の大学の中で選考が行なわれることが多いが、TOEFLやIELTSのスコアは、その際重要な選考基準となる。

日本の大共通テストでは、2020年度から民間の「英語4技能試験」を使用することが決まっており、TOEFLやIELTSもその中に含まれる。現時点ですでに、それら4技能試験を入試に活用する大学が増えてきており、大学に入ってからではなく、高校生のうちからこういった試験の対策を始める人も多い。大学受験時からこれらの試験に慣れておいた方が留学に有利である一方、大学に入ってから勉強を始める人は、短期間で高得点を取るため、周到な準備が必要とされるだろう。

「短期間にできるだけ高いスコアを得るには、それぞれの試験の特性を理解して対策を進めることが肝心。私たちは、試験を研究し、最も効果的な学習法を指導しています」。土橋先生を含め、アゴス・ジャパンの日本人講師の多くは海外の大学で学んだ経験を持ち、自身の経験に基づいて留学準備や海外の大学での勉強法についてアドバイスをくれる。ネイティブスピーカーの講師も数多く在籍、読解や文法

は日本人講師が、発音指導やライティング添削はネイティブ講師がといったように、チームを組んで指導に当たっている。

■海外進学の準備は高1から

欧米の大学は一般に9月に新年度が始まることが多いが、アメリカではたいてい同年1月または前年11月に出願の締め切りがある。アゴス・ジャパンの松永みどりカウンセラーは、「アメリカのトップクラスの大学への進学を目指すには、高校1年生のうちから準備を始めてほしいと思います」という。

「アメリカの大学には“入学試験”がなく、書類選考で合否が決まります。その書類には、TOEFLやIELTSといった英語試験のスコア、SATというアメリカ版センター試験のスコア、高校での成績、課外活動での評価、エッセイなどが含まれます」。

TOEFLやIELTS、SATといった試験のスコアが高いだけでは有利とはいせず、高校で優秀な成績を収め、クラブ活動でも実績を残したという記録が必要となる。「留学の準備には非常に時間がかかります。できれば高校2年の終わりごろまでにTOEFLやIELTS、SATでベストスコアを出しておき、3年生になったら出願校のリサーチやエッセイの作成を始めたいところです」。アゴス・ジャパンでは準備すべき書類とその書き方についてサポートを行ない、効果的なエッセイのまとめ方についても指導してくれる。「エッセイの中で、スポーツ活動で頑張ったこと、チームワークを大切にしてきたことを強調したいのであれば、それを裏付けるような課外活動の記録があり、さらに、日本の高校の先生の推薦状でその点に触れてくれるといいですね。そのように総合的に書類を準備するのが、アメリカの大学の出願なのです」。

留学は海外の大学の授業料に加え滞在費も必要となり、一般に高額な費用がかかると思われがちだが、現在は「ユニクロ」を展開するファーストリテリングの代表による「柳井正財団海外



フルブライト奨学金を経てアメリカの大学院に留学。カナダで大学院生・助手の経験がある土橋健一郎先生。

奨学金、ソフトバンクグループ代表による「孫正義育英財団」の支援など企業関連の奨学金も増えつつあり、何らかのかたちで援助を受けて渡航する学生が増えている。「海外の大学への進学は、日本の高校生にとって国内への進学と並ぶ選択肢のひとつ。脳科学やAIを学ぶのであれば、日本の大学を出てから海外に行くのではなく、最初から海外の大学へ行った方が近道だと、高い目標を持って留学を目指す方が大勢います」と、松永カウンセラー。

アゴス・ジャパンでは、毎年「海の日」(今年は7月16日)に「夏祭り」を開催、海外の大学の在校生・卒業生と会って、出願準備や現地での生活について直接会って話を聞く機会を設けている。また、ウェブサイトに「留学経験者の声」や「留学生ブログ」を掲載、海外での生活がどのようなものか、リアルタイムで知ることができる。留学を目指している人、まだ「興味がある」という段階の人も、ぜひ参考にしてみよう。



海外大学留学についてアドバイスする松永みどりカウンセラー。「アメリカのトップクラスの大学への進学を目指すには、高校1年生のうちから準備を始めてほしい」と語る。

